

おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会 会議録

日 時	令和5年9月29日(金) 14時00分～16時00分
場 所	阪南市役所 3階 全員協議会
出席者 (敬称略)	<p>委員 久(委員長・近畿大学)、下村(副委員長・大阪府立大学)、奥野(商工会)、駒田(南海電鉄)、小嶺(関西エアポート)、佐藤(市民)、澤田(連合大阪)、根無(市民)、古野(自治会連合)、松端(武庫川女子大学)、南(大阪観光局)、矢田(大阪府)、和田(大阪府)</p> <p>阪南市 市長 水野、未来創生部長 松下 政策共創室:藤原、菊野、御坊谷、太田、石橋 まちの活力創造課:高倉、永井、楠本</p>
傍聴	2名
議事項目	<p>① 開会 ② あいさつ ③ 委員の紹介 ④ 委員長、副委員長の選出 ⑤ 議事 (1) 第2期総合戦略の進捗状況について ・第2期阪南市総合戦略の概要 ・令和4年度の主な取組状況 ・地方創生推進交付金事業の内部評価・効果検証 (2) 令和5年度の主な取組および大阪・関西万博に向けた取組について (3) 地方版デジタル田園都市国家構想総合戦略について (4) 意見交換 (5) その他 ⑥ 閉会</p>
会議資料	<p>① 次第 ② 名簿 ③ 資料1-1 第2期阪南市総合戦略_進捗状況報告書(令和5年度) ④ 資料1-2 令和4年度 阪南市新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業の実施状況および効果検証 ⑤ 資料1-3 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(令和5年度分)の活用予定事業一覧〔令和5年6月23日時点〕 ⑥ 資料2 地方創生推進交付金事業に係る効果検証 【創生委員会評価シート】 ⑦ 資料3 地方版デジタル田園都市国家構想総合戦略について(案) ⑧ 参考資料1 観光庁補助事業 ⑨ 参考資料2 宮田万博プロデューサー ⑩ 参考資料3 デジタル田園都市国家構想総合戦略 ⑪ 昨年度の会議録 ⑫ 資料0 第2期阪南市総合戦略進捗状況報告書(概要版) ⑬ 配席表 ⑭ 移住定住リーフレット</p>
議事内容	
1. 開会	
事務局	<p>定刻になりましたので、おもいやりあふれるまち阪南 まち・ひと・しごと創生委員会をはじめさせていただきます。 皆様方におかれましては、ご多忙のところ、本委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。 本日の出席委員は、委員総数15名に対し、13名となっておりますので、おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会条例第6条第2項の規定により、本日の会議が成立</p>

しておりますことをご報告いたします。
 なお、大阪府の矢田課長様は、オンラインにて出席いただいております。
 また、ジェイコムの武石様および池田泉州銀行の濱田様より所要のため欠席の旨、あらかじめご連絡をいただいておりますことを併せてご報告申し上げます。
 本日の傍聴者は、2名です。
 申し遅れましたが、私は、本委員会の事務局を担当させていただいております、阪南市未来創生部政策共創室 室長の藤原でございます。
 本日は、司会を務めさせていただきますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。
 本日の進行につきましては、ご配付させていただいております、会議次第に基づき、進めさせていただきます。
 それでは、まず、開会にあたりまして、市長水野より、ご挨拶を申し上げます。

2. 市長あいさつ

市長

委員の皆様には、公私共にご多用のところ、本日のおもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会にご出席をいただきまして、また、委員を快諾いただき、心より御礼申し上げます。
 本市の人口は、昭和 40 年代からの丘陵部の住宅開発と平成 8 年の阪南スカイタウンのまち開きにより、右肩上がりでも推移してきましたが、平成 14 年をピークに人口減少の傾向にあり、国立社会保障・人口問題研究所推計では、2040 年には、約 37,000 人まで人口減少することが推計されており、今後、少子・高齢化が一層進展し、社会保障の面でも現役世代が高齢者を支えきれない構造になることが見込まれます。
 このような人口減少は、市の維持に大きな影響を与えばかりでなく、地域経済の縮小等を招くことになり、地域社会の基盤維持が困難になりかねない状況です。
 そのため、地方創生・人口減少の克服のため、2060 年時点で人口「約 44,000 人」を目標に、「誰もが住みたい、住んで良かった」と感じるまちを実現するため、令和 3 年度から令和 6 年度までの 4 カ年計画として、「第 2 期阪南市総合戦略」を策定しています。
 「第 2 期阪南市総合戦略」では、限りある財源と人材をメリハリのついた重点施策として絞り込むこととし、子育て世代、特に 30 歳代の働く女性に焦点をあて、より効果の発揮が期待できる施策を選択し、集中的に実施することで目標の具体化を図っています。
 また、この総合戦略の進行管理については、行政内部だけではなく、第三者による評価を行うことにより、新たな視点で施策や事業を検証し見直しにつなげていきたいと考えています。そのことが、最終的には、本市のまちづくりの前進につながり、総合戦略に掲げる「誰もが住みたい、住んで良かったと感じるまち」の実現につながるものと考えておりますので、限られた時間の中ではありますが、委員の皆様には、本市のまちづくりのため、お力添えを賜りますよう、心からお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

3. 委員の紹介

各委員および事務局

次に、本日、ご出席をいただいております、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。
 また、皆様の委嘱につきましては、大変恐れ入りますが、略儀ながら委嘱状をお手元にご配付させていただいておりますので、委嘱状の交付に代えさせていただきます、ご確認、ご了承をお願いできればと存じます。
 それでは、私の方で、お手元の名簿順にご紹介させていただきますので、よろしくお願いいたします。
 (詳細割愛)
 ありがとうございました。
 続きまして、市事務局側の紹介をさせていただきます。
 (詳細割愛)

4. 委員長、副委員長の選出

事務局

続きまして、委員長・副委員長の選出を行いたいと存じます。
 委員長選出にあたりましては、本委員会条例第 5 条第 2 項により、「委員長は、委員の互選によって定める。」となっております。皆様、いかがでしょうか。
 どなたか、ご推薦いただける方、ございませんでしょうか。

委員	久委員にお願いしたいと思います。
事務局	ただいま、奥野委員より、久委員のご推薦のご発言がございましたが、皆様いかがでしょうか。 ⇒異議なし ありがとうございます。異議が無いようでございますので、久委員に、お願いいたしたいと存じます。 それでは、久委員、委員長席へ移動をお願いいたします。 続きまして、副委員長の選出を行いたいと存じます。 副委員長の選出につきましては、本委員会設置要綱第4条第4項により、「副委員長は、委員のうちから、委員長が任命する。」となっております。つきましては、久委員長より、任命をお願いしたいと存じます。
委員長	副委員長につきましては、下村委員にお願いしたいと思います。
事務局	それでは、委員長・副委員長が選出されましたので、委員長、副委員長より、ご挨拶をお願いしたいと存じます。
委員長	ご推挙いただきましたので、皆様方のお力を借りながら進めて参りたいと思います。先ほど市長からも総合戦略のお話ございましたけども、総合計画もこのメンバーの大半の方と一緒に作らせていただきましたので、この総合戦略と総合計画を両輪に、より良い阪南市づくりに頑張っていければというふうに思います。今後ともよろしく申し上げます。
事務局	久委員長、ありがとうございました。
副委員長	委員長を補佐し、しっかりと阪南市のまちひとしごと創生委員会のお手伝いをできればと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。
事務局	下村副委員長、ありがとうございました。

5.議事

事務局	次に、資料のご確認をお願いいたします。 事前配布資料として、 次第、名簿、資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料2、 資料3、参考資料1、参考資料2、参考資料3、 昨年度の会議録と、当日配布資料として、資料0、配席表、移住リーフレット のほか、3点です。資料不足等、ございませんでしょうか。 それでは、議事のご説明をさせていただく前に、皆様に本委員会の情報公開について、ご了承をいただきたいことがございます。 まず、会議の公開でございますが、阪南市自治基本条例等に基づき、委員会は原則公開としておりますので、傍聴を希望される方には、傍聴していただき、また、会議の議事録は、ウェブサイトにて公開を行いたいと考えております。 以上について、皆様にご了承をお願いしたいと存じます。 ⇒異議なし それでは、以後の進行につきましては委員長にお願いしたいと存じます。久委員長、よろしく お願いいたします。
-----	--

(1)第2期阪南市総合戦略の進捗状況について

委員長	地方創生の事業については、毎年の進捗が必要となっておりますので、昨年度の事業について評価させていただきたいと思っております。 それでは、議事次第に基づき、進めさせていただきます。 次第の5. 議事案件、「(1)第2期総合戦略の進捗状況について」を事務局から説明をお願いします。
事務局	【第2期阪南市総合戦略の概要】 それでは、第2期阪南市総合戦略進捗状況について、政策共創室から説明いたします。 まず、資料1-1 第2期阪南市総合戦略進捗状況報告書の1ページ、目次をご覧ください。 前のスクリーンにも放映いたします。 政策共創室からは、I 概要、令和4年度実績報告のうち、II-①第2期阪南市総合戦略の概要と、II-②令和4年度主な取組状況をご説明いたします。 II-③地方創生推進交付金事業の内部評価・効果検証については、後ほど、まちの活力創造課から説明いたします。

時間の関係上、要点に絞って説明させていただきます。

まず、3ページ、総合戦略の概要として、総合戦略とは、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を維持し、将来にわたり活力ある地域社会を実現するため、まち・ひと・しごと創生に関する基本的な方向性や具体的な施策をまとめたものです。

4ページ、本市の人口面の特徴として、10代後半から20代前半の転出が多い傾向にあります。また、30～40代の子育て世代の転入者が年々減少傾向にあります。

そのため、持続可能な地域社会を実現するため、子育て世代をターゲットに、

7ページから8ページに記載している4つの基本目標を柱に、各施策を実施しています。

この総合戦略に掲げる指標については、毎年、進捗状況を把握することとされています。本日は、第2期総合戦略に基づいて取り組みました事業について、ご報告させていただきます。なお、皆様に評価いただき、地方創生推進事業については、後ほど、担当課の、まちの活力創造課から説明させていただきます。

【令和4年度の主な取組状況】

総合戦略では、地方創生に関して、さまざまな取組を行っています。

皆様の意見交換のお時間を多く確保できるよう、当日配布資料として、資料0、概要版を作成しました。

令和4年度の主な状況、14から42ページまでの部分について、資料のボリュームが多いことから、時間の関係上、本日配布しています、A3の「資料0 第2期阪南市総合戦略進捗状況報告書（概要版）」にて、説明いたします。

1つ目として、資料1ー1の23から27ページにあたります、「全国を代表する、子どもを中心とした海の再生・ブルーカーボンの先進都市」として、

令和4年度では、SDGsの推進として、本市のSDGsの取り組みが、令和4年5月にSDGs未来都市と、自治体SDGsモデル事業に選定されました。

この自治体SDGsモデル事業は、全国10都市だけが選ばれるものです。

また、SDGsの普及啓発として、シンポジウムや、小学校出前講座、魅力発見のイベントを開催しています。

ブルーカーボンの取組では、2009年に国連環境計画の報告書において、海洋生態系に取り込まれた炭素を「ブルーカーボン」と名命し以降、地球温暖化対策の吸収源の新しい選択肢として注目されてきています。

本市では、海洋教育パイオニアスクール・プログラムとして、本市小学校5校で、環境・海洋をテーマに探究型協働学習に取り組んでいます。

海洋教育の中で、アマモの花(か)枝(し)を海から採集し、そこから種子(しゅし)を取り出し、それを粘性土に入れて団子状にし、それを海に投げ込むことでアマモの栽培を行う一連の活動を、こども達を中心になり取り組んでいます。

こども達は、アマモ場が、海の生物、また海の環境にどのように影響しているのかを、自分たちの頭で考え、体験し、学ぶことにつながっています。

また、一般財団法人セブンーイレブン記念財団と、アマモの保護・保全活動と沿岸清掃活動を行う「阪南セブンの海の森」プロジェクトに取り組んでいます。

さらに、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標を掲げている、環境省の生物多様性のための30BY30アライアンスに参加をしています。

このような取組により、子どもたちが再生活動に取り組んできました「アマモ」のブルーカーボンの認証として、国の認可法人：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合【JBE】の認証を得ています。

また、生物多様性の長期的な域内保全に貢献するモデル地域として、OECM「自然共生サイト」の認定審査に申請しています。陸内事例が多い中、海浜地区では、全国でも少ない先駆的な事例としては、今年度中に認定が予定されています。

令和5年度の取組は、後ほど説明いたします。

次に、資料の裏面をご覧ください。

左側のⅡの、「全国を代表する、共創チャレンジの先進都市」については、万博の取組であることから、議題の2で説明いたします。

次に、右側のⅢ、「南大阪を代表するスマートシティのモデル都市へ」

こちらは、資料1ー1では、14から19ページに記載しています。

本市の総合戦略において、南大阪を代表するスマートシティのモデル都市をめざすことを掲げています。

令和4年度は、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用して、遊休施設として、空き家を活用したサテライトオフィスを開設する民間事業者への支援や、公民館や地域交流館等の公共施設の使用申請のオンライン化、文化財のデジタルアーカイブ、地域デジタル支援アプリを自治会連合会に導入しています。

令和4年度については、本交付金の府内での採択数は、一番多い状況です。また、この4つの事業は、国の地方創生の臨時交付金も一部活用しています。臨時交付金を活用した一覧は、令和4年度は資料1-2、令和5年度は資料1-3に掲載しています。後ほどご覧ください。

また、大阪モデル”のスマートシティの実現に向けた「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」と連携して、実証実験として、タブレットを活用した空き家の実態調査、オンラインの食イベント等を実施したところです。

これらにより、行政手続きのオンライン利用件数は、令和3年の217件から、令和4年度が1,378件となり、前年から6倍以上に増えています。

本市のスマートシティ関連の取り組みを一覧にしたものは、資料1-1の19ページにまとめています。後ほどご覧ください。

令和5年度の取組は、後ほど説明します。

次に、資料の下段、IV 移住定住の取り組みです。

こちらは、資料1-1では、28から31ページに記載しています。

移住定住の支援として、令和4年度は、政策共創室内に移住相談窓口を開設、また、市外のイベント時に出張移住相談窓口の開設、リーフレットの作成や、移住専用ウェブサイトに関連イベントを掲載した情報発信、地上波での発信等を行っています。

これにより、資料の右側、移住専用のウェブサイトは、約1年で、10万件以上PR動画再生回数は、約1年で1万4千回以上、

転入者は、右のグラフを見ていただき、令和元年の1,401人から令和3年にかけて減少していましたが、令和4年は、103人増加しており、V字回復しています。

また、転出者は、10人ではありますが、減少しています。

このように、さまざまな地方創生の取組が、魅力創出等につながり、移住定住の取り組みと併せて、成果が出てきています。

続きまして、皆様に評価いただきます、資料1-1の44ページから51ページの地方創生推進交付金事業の内部評価・効果検証につきまして、まちの活力創造課から説明させていただきます。

まちの活力
創造課

【地方創生推進交付金事業の内部評価・効果検証】

それでは、地方創生推進交付金事業の内部評価・効果検証にかかるご説明をいたします。

まず45ページをご覧ください。

本事業は、堺市以南の13市町9市4町と民間企業等の官民が一体となり、観光地域づくりの舵取り役として、地域連携DMO(一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューロー)を設立し、客観的な根拠にもとづいた戦略のもと、多様な関係者と協働して、地域資源のプロモーションや一元的な情報発信、体験型観光の提供、マーケティング機能の強化等事業を展開することにより、地域内へ継続的・安定的に観光客を誘客するとともに、泉州地域の文化の創造、人材の育成、地域経済の活性化に寄与することを目的としております。

今回は、地方創生推進交付金の活用事業として、KIX泉州ツーリズムビューローの設立から5年目となる令和4年度の実施事業として、この後に説明をいたしますが、大きく分けると、(1)プロモーション事業、(2)情報発信事業、(3)受入環境整備事業、および(4)商品企画・開発事業の4つの柱を中心に実施したことによる、本市における効果検証を行ったものです。

お恐れ入りますが、ページを1枚お戻りいただき、44ページをお願いします。

こちらでは令和4年度における事業費を記載しています。

事業費は3,436千円としていますが、この金額は阪南市からKIX泉州ツーリズムビュー

ーローへ支出している負担金を示しています。

負担金の内訳といたしましては、今回の内部評価・効果検証を要する国からの地方創生交付金が 852 千円に一般財源として 2,584 千円を加えた 3,436 千円です。

なお、本資料に記載はありませんが、事業実施主体である KIX 泉州ツーリズムビューローが 令和 4 年度に行った事業費に関しましては、先ほど申しあげました 4 つの事業の合計で 34,903 千円となります。

それでは、各事業の達成状況等についてご説明させていただきます。

資料 46 ページをご覧ください。

まず、1 つ目のプロモーション事業では、外国人留学生に対し泉州の特産品や情報を配布する等プロモーションを行うため、大阪観光局および JETRO が主催するイベントに参加し、来場者 681 人に対し泉州地域や構成市町の特産品のプロモーションを行いました。

また、令和 4 年 9 月 22 日から 25 日の 4 日間において東京ビッグサイトで行われた観光ビジネスに関わる情報と関係者が集結する総合観光イベント、ツーリズム EXPO ジャパンに出展し、BtoB の商談会では 6 社の事業者と商談する等商品造成に関して貴重な情報を得ることが出来たとともに、一般来場者にはリーフレットを渡す等泉州のプロモーションを行うことができました。

またその下、10 月には泉佐野市のりんくうプレミアムアウトレットで開催した SDGs グルメ万博では、ブース来場者数 2 千 5 百人を数える等、他府県から多数の来場を見込める集客施設において本市の PR ができたものと感じています。

資料 47 ページの 2 つ目の情報発信事業では、国内外向けの SNS 発信に注力し、ビューロー公式 Facebook や Instagram の多言語版の強化を図るとともに定期的な更新を行うことにより、フォロワー数は順調に伸びています。

下から 2 つ目の 台湾市場向け泉州エリア情報発信事業では SNS や訪日観光メディアを活用し、関西国際空港の利用の多い台湾人を対象に情報発信を行い、泉州の認知度を向上するとともに、OTA・予約サイト等へ誘導することで、泉州への誘客につながる仕組みを構築しました。

続いて資料 48 ページの 3 つ目の受入環境整備事業では、

観光に関心を持つ地域企業等を対象に観光客の受入態勢の整備等について協議する「泉州観光地域づくり連携協議会」およびワークショップを開催したとともに、泉州地域の観光振興施策のひとつであるサイクリングイベントを、泉州と隣接する和歌山市と連携して実施し、309 名の完走者がでる等、一定の効果があつたものと感じています。

最後に 4 つ目の商品企画・開発事業では本市を含む田尻町、泉南市の近隣市町と連携し、本市でも約 6 年前から養殖を続けている牡蠣をフックにした広域事業である牡蠣フェスティバルを実施しました。

KIX 泉州ツーリズムビューローでは、北摂から本市への誘客を目的としたプロモーションとして北大阪急行での車内広告を展開する等牡蠣フェスティバルへの誘客プロモーションを実施しました。

本市における開催では当日は雨天にも関わらず、約 3,000 名の方にご来場いただき、本事業においてもプロモーションの効果が表れたものと認識しています。

令和 4 年度に実施しました主だった事業の概要は以上となりますが、KPI の達成状況につきましては、45 ページ下段に記載の実績値のとおりです。

KIX 泉州ツーリズムビューローでは、泉州地域における観光振興、観光産業の成長を図り、地域経済の発展に寄与することを目的としていることから、本市における本事業の実施に伴う効果測定では、本市内で開催された「各種イベントにおける 総参加者数」を KPI に設定しています。

令和 3 年度実績値からの伸びにつきましては、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症対応に一定の緩和があつたことから、感染症対策を行いながらも一部イベントに関

	<p>して実施をすることができたため、参加者数の増加につながったものです。</p> <p>具体的には全日本ビーチバレージュニア男子選手権や、やぐらパレードの開催、また先ほどの牡蠣フェスティバルの開催による参加者数が含まれることが要因です。</p> <p>しかしながら、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策をとりながらイベント実施する等、アフターコロナを見据えた取り組みにシフトし、一定の成果を確認することができましたが、本市における効果測定の場合、令和4年度に実施できなかった箱作海水浴場や潮干狩り等といったイベント実施に伴う来場者数も KPI に設定していることから、新型コロナウイルス感染症の影響が直接的に KPI に反映し、目標値との差に大きな乖離が生じることとなったものです。</p> <p>ここからは 51 ページの内部評価の説明になりますが、既に説明させていただきました KIX 泉州ツーリズムビューローのプロモーション活動等により、本市における実施事業である全国ビーチバレーボール男子選手権や やぐらパレードの実施、また、西日本で唯一体験できる「すだて遊び体験」等の集客につながったものと認識しています。</p> <p>地方創生交付金を活用した本事業を実施することにより、泉州地域の魅力発信はもとより、本市の魅力発信にも寄与し、知名度向上につながっている事と考えられます。</p> <p>目標値と実績値の乖離は認められますが、以上の事から内部評価では 「B：地方創生に相当程度効果があった」とさせていただきました。</p> <p>説明は以上です。</p>
委員長	<p>ただいま、第2期総合戦略の全体の進捗状況報告がありました。地方創生推進交付金事業である「KIX 泉州ツーリズムビューロー事業」の効果検証および評価をすることが第一目的となっていますが、せっかくなので第2期総合戦略の全体の進捗についての質疑応答をさせていただきたいと思っております。ご意見・ご感想やもう少し詳細に聞きたいことがありますでしょうか。</p> <p>本日、手元の資料0は、事前に事務局とお話をし、調整させていただきました。その本体の資料1-1では、たくさんの取組をしたという情報をいただいております。もう少しメリハリをつけて、どういう成果が出たのか、どういう課題が残ったのかということ、コンパクトにお話をいただいた方が、効果が出てくるのではないかとということで、わかりやすく PR アピールもできるようにしていただいた次第でございます。</p>
副委員長	<p>阪南市で SDGs に関わるような対応をいつも早く取り組まれていることは、いつも誇らしく思っております。それで令和4年度に看板になるような取組を実施し、環境保全関係の事業は非常によく対応いただけていると思っております。総合計画全体の基本目標1、2、3、4にどれに対応した取組・事業なのかということ、少しご紹介いただけたらと思っております。</p> <p>資料1-1の7ページから書かれている基本目標1、2、3、4に対して、それぞれ重要な取組があれば少しご紹介いただけたら、計画の進捗が分かるかと思っております。目標ごとにアピールできる場所がありましたら教えてください。</p>
事務局	<p>資料1-1につきましては、14ページから基本目標別に整理をさせていただいております。14ページにつきましては、基本目標1「誰もが健康でも幸せに安全な安心な生活しやすいまちづくり」ということで、4つの施策がございます。その幼稚園政策に主だったものをここに挙げさせていただいております。例えば、この中でもスマートシティでは、健康関連の施策があり、健康管理の公民連携による健幸事業があります。スマートシティのところにつきましては、15ページ以降に、スマートシティの推進が重点施策になっており、主だった内容をまとめさせていただいております。</p> <p>基本目標2につきましては、20ページのところにまとめさせていただいております。「子育て世代の希望をかなえ、子育て子育てが満喫できるまち」という目標の中で、4年度のところで取り組んだ主な内容を書かさせていただいております。基本目標3につきましては、23ページのところに、里山・里海づくりの推進という重点施策の中で、我々が取り組んでいる内容を載せさせていただいております。あと基本目標4のところにつきましては、32ページのところにまとめているような事業でございます。プロモーションに、我々力を入れさせていただいているところがございます。以上です。</p>
副委員長	<p>ありがとうございます。基本目標ごとに、きっちりと進捗管理していくことは必要になってこようかと思っております。非常によくわかる資料ですが、どの目標に対応しているかを書いていただいたら、基本計画の基本目標と対比にやっていると、もう少し明記できるのではないかと思います。確認させていただきました。以上です。</p>

委員長	<p>ありがとうございます。どうしても取組を実施しただけの説明になってしまいます。総合計画の場合は、それでもよしかもしれないが、やはり総合戦略の場合は、アピール力がないと、人を寄せることがなかなかできないと思います。そう考えると、大きく言えたほうがよりアピール力が出てきますので、次回は絞り込んでいただいた方が多分インパクトが、強いのではないかと思います。</p> <p>少し余談ですが、近畿大学と聞けば、マグロをイメージしますよね。まず、マグロでアピールして、マグロだけではないという流れで話を持っていった方が、インパクトが残ると思います。そういう意味で、阪南市の何かを表出ししておいて、他にも何かあるというような順番で見せていった方が総合戦略としては、うまくいくと思います。せっかく一生懸命取組をして、転入者も増えて効果が出てきていますので、そこら辺の出し方を工夫するだけで、見え方が違ってくると思います。次年度以降はよろしくをお願いします。</p>
委員	<p>PR 動画を見させていただきました。私が見た動画だと件数が1個1個伸びてないという印象でした。動画の内容で何組かのご家庭が転入してきて、阪南市の良いところの質問に対し、「公園があります。」、「自然がいです。」、「人と人の繋がりががあります。」と回答していたが、まず、公園がそんなにあるのかという印象でした。よくよく聞いていくと、公園の数はあるらしいのですが、実際に小学生ぐらいの子どもたちが、本当に遊びたいことができる公園は少ないと本当によく聞きます。私は阪南市の自然、海や山は大好きなのですが、実際に市外から来られた方々にきちんと感じてもらえているのか疑問に感じます。動画としても少し弱いと感じました。</p> <p>「人と人の繋がり」については、すごく抽象的ですが、実は、阪南市の一番売りなのではないかと思っています。本委員会も「おもしろいあふれるまち」と題していますが、それを表現するのは難しい。でも、実際に住んでみたときに、私自身は、転入者で、千葉県成田市から移住して、すぐ子供ができて5年間ぐらい本当に人の交流がなく孤独で、それが本当にしんどかったです。本当に早く阪南市を出たいと思っていましたが、それは人に恵まれたことによって、阪南市で、子供を育てていきたいという考えになりました。人と人の繋がりで助けてもらえた経験をどうやってPRするかが課題だと思っています。私の主人も私も関東に住んでいて、関東内のたくさんの地域に引っ越しが多かったのですが、本当に阪南市は人がすごく、やさしく、人のことを想って行動する人が多いと思います。多分、阪南市に住んでいる方は、実は気づいていないと思いますが。私の友人も阪南市の移住者で、「阪南市は違う。」と感じています。これをどうやってプロモーションとしていくか。</p> <p>委員長がおっしゃったみたいに、「近畿大学＝マグロ」みたいな本当にわかりやすいワードから、どうプロモーションしていくのか。例えば、YouTube 動画のライブ配信は、同世代の女性が見ているだろうと思いますが、チャット欄で書かれている内容として、「私、孤独です。」というワードが投稿されていることが、すごく多い。心の嘆きがものすごく多いと感じていて、自分自身本当に人に恵まれているのだと感じます。それを具体的に表現できれば、阪南市は、日本で本当に一番の都市になれると思っています。抽象的なことだけど、そこに意識を向けてほしい。そのPR 動画は、少しスタイリッシュすぎると感じていて、実際に子育てや引っ越しを検討している人からすると、本当にそのキラキラだけを見て、阪南市に行こうとなるのかと疑問に思います。人と人の繋がりを具体的に、例えば、NPO 等で細やかな対応をしていることやどういう言葉でどれくらいシンプルな方法で伝えるか知恵を出し合ったら、もう少し良い内容のPR 動画、文章、記事になるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。先ほどの「人と人の関係」というのは、ほどよい距離感みたいな感じですか。</p>
委員	<p>ほどよい距離感とよく言われるのですが、大事なものは人権意識です。いつでもどんな自分でも、悪いときでも、それを認めてもらえるという意識が基本にあります。ほどよい距離感というよりは、相手の気持ちや考え方を認め、尊重できる補い合う関係です。</p>
委員長	<p>どういうストーリー、コピーでそれを訴えたらいいのかわかりました。本日は議論する時間は取れないですが、そのあたりを事務局にも、もう少し時間をかけてお届けいただいて、より良い動画が、できたらいいと思っています。マーケティング世界ではストーリーテリングというものがあります。そのエピソードを通じて物語として語っていくやり方が多くなっています。ストーリーテリングの手法を使って、どういうストーリーで、先ほどのお話をよりわかりやす</p>

	く、お伝えするのか、工夫をしていただければ、移住者もより増えるのではないかと期待しております。
委員	<p>先ほどの委員の発言に関連してですが、言葉だけで「やさしい」は伝わりにくい。大学の学生を集める視点で考えた時に、近大でしたら、マグロで大人気ですが、1万人規模の武庫川女子大の場合は、「やさしさ」を売りとしています。女子大の福祉で本当にやさしい。何かあってもその背景を考えたりしています。あまり、誰かを責めたりせずに、まずそれを理解してもらおう。オープンキャンパスの際に、在校生とお話しをする場や体験をする2時間ぐらいのプログラムを行っていますが、来場者の方たちがほぼ100%、オープンキャンパスの中でも武庫川女子の福祉学科が一番いいと皆さんご評価いただいています。「教員の説明も何よりも、在校生の温かい感じが、直に伝わって、温かい学校だと思いました。」と感想をいただいています。阪南市も市民の人たちが集っている場に、イベントをして、ワークショップの様子等を動画に上げてPRを行うと、楽しい雰囲気や町の良さが本当に伝わるかもしれません。とてもスタイリッシュであるという話でしたけど、大阪府内でも、上手に事業を取ってきているので、本気で活性化しようという気持ちは伝わってきていいのかなと思います。ほっとくと人口は減っていくので、人を動かす必要があります。阪南市の魅力は、とにかく自然が、最大の資源です。特に海や山をうまく取り入れています。更にスマートシティやデジタル化を進めています。他市事例になりますが、岡山県の奈義町は、今では有名ですが、「子育てしやすさ」を売りにしています。だから1つの何かを表立たせて、興味を沸かせて、いろいろ取り組んでいることを知ってもらえれば、阪南市をよりよくPRでき、人がもっと動く可能性は出てくると思います。この人口転入者も微妙に無事回復していますが、これがギュッと上がると面白いですね。魅力的で、特に資料0の裏側下段の「田舎暮らしは灯台もと“暮らし”!?大阪の隠し玉『阪南市』」とありますし、距離的にアクセスもよく田舎暮らしができますね。</p> <p>現代の社会は、地方衰退が重大な問題。それから、少子化が大きな問題であり、孤立の問題もあります。とても深刻化しています。引きこもりは、全国推計146万人。不登校児童が24万5,000人。社会全体で病んできています。それを「阪南市に来ると癒されます。」みたいなことを現実に行えるのかと思います。それを売りこんでいけば、「子育てがしんどい。」「仕事がしんどい。」と思っている人が、阪南市にやってくると思います。ワークスペースもあるため、新たなライフスタイルに応じた働き方の創造等に取り組んでいくと面白いかと思います。</p>
委員長	<p>いろいろアイデアをいただきました。ありがとうございます。私も八尾市とお仕事をしていますが、市民の人が面白いことをおっしゃっていました。「八尾市のひったくり件数が多い。『ひったくりが多い＝イメージ悪い』となりますが、ひったくられる人が多いというのは、やさしい人が多いと聞こえますよね。だから、この逆転の発想で、安心して暮らしているから、みんな簡単にひったくられてしまいますわ。」と、そういう言い方が面白いのではないかと思います。阪南市の場合は、「疲れた人はぜひ、阪南市へ。そうするとまた元気になって帰れますよ。」等のようなキャッチフレーズも面白いと思いました。また、いろいろご検討いただければと思います。</p> <p>1つ確認させてください。阪南市は伊丹市に吸収量を売ることができるということは、もう既に、このまま頑張ったらゼロになり、余るから売るという理解でいいのでしょうか。とてもすごいことです。他の都市部では、ゼロにするのに難航しています。それを都市部で売ることができるというのはなかなかありません。そこをPRできたらすごいと思っています。もし、ここで答えがなければ、詰めていただきたいと思います。</p>
事務局	カーボンニュートラルを目指していくところなので、数値的なものを含めて、また詰めさせていただきます。
委員長	2050年までに市内の二酸化炭素の排出吸収を考えたらゼロにできるので、余っている部分を伊丹市に売っているということは、すごく地球環境にやさしいまち、地域にもなっているので、是非ともアピールして欲しいと思います。それから市長のご挨拶がありましたように、グリーンカーボンはいたるところではありますが、ブルーカーボンはなかなかない。だから、これを売りに出せるのは、すごく特徴的で非常に大きい。すでにアマモの再生をしているからこそ、できたこと。ブルーカーボンが出てきてから始まったわけではありません。その前からアマモ場の再生をやっていたからこそ、その成果も出た。もっと大切にしたいと思っています。
市長	ありがとうございます。ゼロカーボンシティ宣言をしてから、なかなか成果は十分に上がっていないです。企業様を買っていただくというのが本来なのですが、我々が持っている里海という資源を誰が保全をしているのか。それを考えると、子供たち、漁業者、市民の皆さんが活動

	<p>していることによって、自然浜が残り、アマモが保全・維持できています。そして、また、環境問題にそれ貢献していることを、是非とも形にしたいという想いがありました。それを通して、阪南の里海の価値やたくさんのプレーヤーに投資をしたいというような想いで、クレジットにしました。そういった意味では、まちの中のカーボンニュートラルをどうするのかという課題はまだ多いと思っています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。できるだけうまく PR をしていただければと思います。資料 0 で一番大きなページ使っているということはやはり、それだけアピール力をお感じになっていると思います。</p> <p>全体的に他にございますか。ないようでしたら、KIX 泉州ツーリズムビューロー事業の評価に移りたいと思います。最終的には有効であったのか、なかったのかの 2 つでしか評価ができません。有効であった場合、有効でなかった場合でも、今年度以降の事業にも反映できるものと思いますので、ご意見をいただきたいです。それでは、KIX 泉州ツーリズムビューロー事業の評価の方に移ります。まずは、副委員長から、よろしくをお願いします。</p>
副委員長	<p>別添 A 3 各種事業の一覧表について。</p> <p>一番右の枠にしっかり評価が書かれています。今回のパワーポイント資料の 46 ページ。プロモーション事業の 1 つ目、留学生 EXPO。前年 681 名、前年比 40% 増。これが書いてあると前年よりも増えたので、効果があったのではないのかということとは推測できます。ただ 40% 増えても、当初目標が 80% であれば、目標達成にはなっていないです。その次のツーリズム EXPO ジャパンアンケート回答者数が 1725 人。目標 5,000 人としての 1700 人だったのか。目標 500 人での 1,700 人集まったのか。これによって評価の書き方が変わります。</p> <p>事実の列挙だけでは、効果があったのか、なかったのかが推測できません。経年変化、3 年度 4 年度 5 年度とその推移を説明しないとご理解いただけないので、少なくとも 1,725 名集まったことによって、目標がほぼ達成できたのか、十分な数値が獲られたのか、評価のコメントを書いていただくことが必要です。事務局資料をお作りいただくときに書いていただければと思います。</p> <p>この補助金事業は、事業が終わった後、この取組を全部なくしてしまうのか。または、新たに補助金を申請するのか、もしくは単費でも続けるのか、教えていただければありがたいです。</p>
まちの活力創造課	<p>各項目の目標数値ですが、こちらに記載していません。最終的に KPI のみを掲載させていただいております。先ほどの留学生 EXPO の件についてですが、KIX 泉州ツーリズムビューロー事業では、目標値を決めてございまして、アカウント数が KPI 目標としては、アカウント等の取得数、200 名に対して、実績がアカウント数 299 名という結果が裏のデータで報告が上がってきてございます。こちらには記載しておらず、申し訳ございませんでした。今回の補助金は令和 4 年度で 5 年目の事業となっております。</p> <p>基本的には 5 年目で終了となっており、各構成市町 9 市 4 町で拠出する負担金で、プロモーション事業、情報発信、受入環境整備、商品企画の開発事業といったようなものを行っていくことが基本前提となってきます。</p> <p>ただ、財源に限りがございますので、KIX 泉州ツーリズムビューローの国の補助金の地方創生交付金事業は、5 年度で終了となっておりますけれども、違う交付金、国の補助金等を活用しながら、今後事業を進めていくという方向性で進めてございます。</p>
委員長	<p>他、いかがでしょうか。なかなかコロナ禍の影響がありますので、KPI もその分、目標には達していないという状況の中で、我々も評価をしづらい部分がありますが、有効か有効でなかったか。</p>
委員	<p>KIX 泉州ツーリズムビューローとは、私ども平素よりいろんな事業を共同させていただいております。資料のプロモーション事業のうち、留学生 EXPO やツーリズム EXPO ジャパン、昨年の東京で開催された分につきましては、私どもと KIX 泉州ツーリズムビューローとその他 2 団体計 4 団体で大阪を PR するブースを共同で出展をさせていただいております。イベントやプログラムの一環として、ツーリズム EXPO の後半の 2 日間、一般の方が来場できる日にちに実施をいたしました。当初目標としましては、1 日に 700 件で、2 日で 1,400 件としていました。結果蓋を開けたら、1,725 名。当初の目標値を上回る数字になりました。コロナ禍での開催は難</p>

	<p>しい事業でございましたが、非常に効果があったのではないかと考えております。それから、あと定性的な部分申し上げますと、この KIX 泉州ツーリズムビューローの事業、阪南市を初め泉州 9 市 4 町の管轄をされる広域連携 DMO として活動されています。実は大阪府内に観光の広域 DMO があるのは実はこの泉州地域だけ。大阪観光局の目から見ましても、非常にそのおかげ泉州地域については、地域としてまとまりのあるプロモーションができていると感じております。他の地域、例えば北摂或いは河内といった地域では、それぞれの市町が単独で観光プロモーションを行っている。そのため、同じ地域でも市町によって、濃淡が非常に出てきている。大阪観光局としても、普段頭を悩ませている部分ではありますが、この泉州地域におきましては、KIX 泉州ツーリズムビューローの活動のおかげでそれを解消していただいているというふうに、日々感じているところでございます。今後も、KIX 泉州ツーリズムビューローと連携をとりながら、この泉州地域の観光情報の発信、或いは観光振興に努めていきたいと思っております。簡単ですが、補足と意見表明とさせていただきます。</p>
委員長	ありがとうございます。他はいかがでしょう。
委員	アンケートの結果は阪南市や泉州地域のどのような内容が書かれていますか。どんな印象だったのか気になりました。
委員	アンケートについては、スマホで答えていただく方式にしていました。そのため、あまりその細かいところまで突っ込んで質問するものではありませんでした。本日、手元に持っていないので細かいお話まではいたしかねますが、その内容については、それぞれ参加した私どもと KIX 泉州ツーリズムビューローも生データや集計された報告書は、共有しております。KIX 泉州ツーリズムビューローからの報告でご覧いただける機会はあったかと思っております。
委員長	他よろしいでしょうか。
委員	<p>先ほど、コロナ禍というお話がありましたので、関西国際空港の現状を少しお伝えします。今年度入り、海外からのお客様等も現状、2019 年度と比較して 7 割強まで回復してきております。やはり関西国際空港はどうしても関西を目的にやってくる。関西国際空港は、海外の方が、本空港を使ってどこかに乗り継いでいくという空港ではなく、大阪・関西に来られる方が使う空港です。利用者を増やすためには、どうしても地域の魅力を発信して、ここに来たいという人を増やさないと、お客様が増えていきません。阪南市をはじめとして、泉州地域をもっと知ってもらい、空港をより使っていただきたいと思っております。そういった意味でも、この KIX 泉州ツーリズムビューローは、泉州地域一体となって、泉州地域の食材や観光スポットを売り込んでもらうという取組をやっていただいております。</p> <p>こちらに対しては、我々も協力させていただいており、今後もインバウンドがますます増えてきますので、もっと発信をしてもらいたいと思っております。ツーリズムビューローでは、例えば、阪南市の食材や酒蔵、自然を売り込んでいますけど、外国や日本国内から来られる方は阪南市というより、泉州地域ないし大阪に行くことを目的としている方が多いです。阪南市や泉佐野市、岸和田市等を目的として旅行することは少ないです。広域的に良いものを発信して一体的にやっていけるのは、DMO という組織の特徴かと思っております。泉州地域のいいものを持ち寄って、泉州地域全体の魅力を発信すれば空港の利用者も増えてくるかと思っております。また、空港の利用者が増えれば、この地域に関わる人が増えるという循環を作っていきたいと我々も思っております。このビューローに対しては、我々も積極的に協力をしていきたいと考えております。</p>
委員長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。この委員会としても有効であったと評価をさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。⇒全会一致 いただいたコメントを事務局と取りまとめて、報告に反映したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。
(2)令和 5 年度の主な取組および大阪・関西万博に向けた取組について	
委員長	続きまして、議案 2：令和 5 年度の主な取り組みと大阪関西万博に向けた取組について、事務局からご説明をお願いします。
事務局	令和 5 年度の主な取組および大阪・関西万博に向けた取組について、説明いたします。資料 1-1 では、52 から 78 ページになります。

こちら資料のボリュームが多いことから、先ほどのA3資料、資料0にて説明します。

資料0をご覧ください。

まず、全国を代表する、こどもを中心とした海の再生・ブルーカーボンの先進都市についてです。

資料1-1では、56から61ページに記載しています。

令和5年度では、子どもたちが再生活動に取り組んできました「アマモ」のブルーカーボンが、国の認可法人：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合【JBE】に、3.4tのCO2が認証され、第1回Jブルークレジットとして、6月から販売しています。

また、海洋教育パイオニアスクール・プログラムは、令和4年度の5校から、令和5年度には、全8小学校まで拡大しています。

さらに、小学校だけであった海洋教育から、社会教育として子どもや若者を中心に「海洋教育」に関する専門的な内容の講義や体験等気軽に学べる機会を提供する、はんなん海の学校が創設されます。

また、全国初！官民共創によるソーシャルクレジットの創出として、「都市自治体 伊丹市」「森林保有自治体 飯南町」「海洋保有自治体 阪南市」で、令和5年4月10日に連携協定を行い、互いの地域資源を生かし、補完し支え合う「地域循環共生圏」の考えを踏まえ、資源循環・環境保全活動等の交流を通じ、それぞれの地域における社会課題解決により創出される「新たな価値を持ったカーボンクレジット（ソーシャルクレジット）」に取り組んでいます。

また、大阪湾における海域生物の生息環境創出のさらなる貢献をするため、府内最大のアマモ場がある阪南市と関西エアポート株式会社が連携し、阪南市内の海域へ関西国際空港の護岸で育った海藻の移植を実施しています。

裏面、左側のⅡの、「全国を代表する、共創チャレンジの先進都市」についてです。

資料1-1では、69から78に掲載しています。

本市は、大阪・関西万博を契機に、市のプロモーションにより連携する企業との地域課題解決や、魅力創出、知名度向上、地域活性化等につなげるため、万博のテーマの実現に向けて、

「TEAMEXPO2025」プログラムに参加しており、自らの描く未来の実現に向けた1つ1つのアクションである共創チャレンジと、共創チャレンジの創出・支援をする団体である共創パートナーの両方ともに、万博協会から登録を受けています。

共創パートナーでは、全国の自治体で3番目に登録を受けており、大阪を代表する里山里海をフィールドにした未来社会のデザイン 共創プレイス・阪南として、多様な連携のもとで、本市の里山里海をフィールドにした取組を推進するとともに、自然体験や健康増進等の取組を共創チャレンジとして登録し、更に活動を促進しています。

加えて、大阪・関西万博会場がある大阪湾で取り組む海洋教育・ブルーカーボン等の共創の取組が全国や世界へ発信されるとともに、より多くの未来社会へ向けての共創チャレンジが阪南市で展開されていくよう、本市が有する里山・里海、それらに関する地域資源等を実証フィールドとして提供することで、環境保全活動等に取り組む企業や団体等のチャレンジを支援しています。

共創チャレンジの創出や支援の取り組みが評価され、万博協会が主催する、第1回目のチームエキスポミーティングで自治体として初登壇して、全国に発信しました。

また、本市の取組みは、国が作成する事例集にも掲載されています。

これらの取組による成果としては、企業や団体等と取り組む、共創チャレンジの数は、市がメンバーになっているもの、市が支援しているものを合わせて、8月末時点で32件となっています。9月に2件登録されて、最新では、34件となっています。

自治体としては、万博の会場都市である大阪市に次ぐ、最大規模となっています。

また、企業や団体等と取り組んでいる共創チャレンジをさまざまなところで発信することで、全国事例に掲載され、そこから新たな公民連携につながっています。

また、共創チャレンジと共創チャレンジを掛け合わせた取組みも生まれつつあります。

令和5年度は、これらの活動の成果を発信する、はんなんSDGs万博を冬頃に開催予定としています。

また、広報誌の折り込みチラシにて、共創チャレンジの活動を発信しているところです。

次に、右側の、スマートシティの令和5年度の取組みでは、今後、スマートシティの取組みを一層加速させるため、スマートシティの推進計画の策定を進めています。

資料1-1では、53から55に記載しています。

今年度は、子育て関連のスマートシティの重点をおき、市立教育・保育施設の登園所管理や保

育日誌等の各種連絡のデジタル化、母子手帳等の記録ができる子育て支援アプリを導入しています。

下段、移住定住の支援では、資料1-1では、62から63ページに記載しています。

令和5年度は、移住相談体制の充実として、令和4年度の対面だけではなく、オンラインで対応できる体制を整えています。

また、移住ウェブサイトにも、移住を検討されている方に対して、親近感を持って本市で暮らすリアルな様子を知っていただき、移住のきっかけや決め手、今どのような暮らしをしているか等、実際に移住された方の経験に基づく情報として、移住者インタビューを紹介しております。

さらに、7月9日の日曜日に、天王寺のキューズモールでFM大阪の公開収録のイベントに、本市に移住された方に出演いただき、移住された理由や魅力を伝えていただき、また、その公開収録に合わせて本市の知名度向上のため観光資源のPRや物産展等も行っています。

また、北海道から沖縄まで各地の地域情報が一挙に収集できる関西最大級の移住定住イベント”おいでや！いなか暮らしフェア2023”に大阪府では、阪南市が唯一参加しました。

次に、資料1-1、66ページをご覧ください。

これらのさまざまな取組の中で、地域活性化に向けて、市民団体にも動きが出てきており、新たなまちづくり動が進んでいます。

とくに、若い世代が中心に、阪南市盛り上げ隊や、まちなか散歩等の取り組みが行われています。

また、67ページのレトロゲーム博物館計画は、万博の共創チャレンジに登録し、世界を魅了する日本のゲーム文化を紹介、体験できる博物館として、8月の1カ月間、廃校となっている旧山中分校を使用して、資料展示を試験的に開催したところです。1カ月間で北海道や海外等から、約2300人が来場され、山中溪地域の飲食店の誘客につながる等、地域の活性化につながっています。

また、このほかにも、今年度は、参考資料1として、観光庁事業を進めているほか、参考資料2にありますように、第2期阪南市総合戦略の重点施策であるスマートシティをはじめとする地方創生を推進するため、万博テーマ事業プロデューサーである宮田教授に「阪南市地方創生戦略アドバイザー」に就任予定しています。

説明は以上です。

委員長

時間的な都合或いは内容的にも関連する部分がございますので、「議案3：地方版デジタル田園都市国家構想総合戦略につきまして」ご説明いただいてから、この内容も含めて意見交換をさせていただければと思います。まずは、デジタル田園都市国家構想総合戦略につきまして、事務局からご説明いただければと思います。

(3) 地方版デジタル田園都市国家構想総合戦略について

事務局

それでは、地方版デジタル田園都市国家構想総合戦略について説明いたします。

資料3をご覧ください。

国では、デジタル田園都市国家構想の実現を図るため、昨年12月に、総合戦略を改定し、2023年度（令和5年度）を初年度とする5か年の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を新たに策定しています。国の総合戦略は、参考資料3です。

これを受け、各市町村において、総合戦略の改訂の動きがでています。

本市につきましては、総合戦略が、令和6年度末までであることから、今年度から着手し来年度にかけて策定していきたいと考えています。

本日は、まず、策定を行うにあたり情報共有とさせていただきます。

国のデジタル田園都市国家構想総合戦略は、テレワークの普及や地方移住への関心の高まり等、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」をめざすものです。

本市では、今年度に策定中の「阪南市スマートシティ推進計画」と整合を図りつつ、総合戦略に新たに追加する事項等を整理することとします。

今後、策定方針や具体的な作業工程等を作成します。

実際に皆様にご意見をお伺いする機会は、来年度に予定しています。

	<p>また、必要に応じて、メール等で進捗を共有させていただければと考えています。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。政権も変わり、名前も内容も、よりデジタルの方にシフトしていくことですが、ただいま2番の今年度の取組、それから大阪・関西万博へ向けた取組、そして3番のデジタル田園都市国家構想の総合戦略の話。さらに議題4で各団体の方々からの情報提供も含めて、残りの時間を全体的に意見交換ができれば。ご質問やご意見は、いかがでしょうか。</p>
<p>(4) 意見交換について</p>	
委員	<p>資料1-1の66ページ。阪南市盛り上げ隊ですけど、阪南TVで、まちの人の魅力あるところをPRしていくコーナーができたと聞きました。阪南市の中でも本当に優秀な人材が市外から来てくれました。私の知り合いのお医者さんですが、整形の先生で、膝の手術ですごく有名な方がいます。ある方より、この方は日本で3本の指に入ると聞きました。議員さんに、それを市のPRとして活用してはどうかと提案があり、議会でも取り上げられていた。私もその先生を知っていたため、阪南TVで取り上げていただくよう提案をしましたが、現時点では難しいと回答をもらいました。理由として、病院は、1つの企業だから、優秀な先生がいたとしても、その病院のPRになり、他の病院に対して不平等になってしまう。結果、クレームがきてしまう。市役所が発信するには、そのような観点で実際に難しいと思いました。でも、優秀な人がいるのに、PRできないのは、すごくもったいない。市長にもお話をしたときに登録制にしたらと意見をいただいたりして、クレームを言う人に対しても、制度の元、選定して行っているという説明ができるし、行政としての平等を保てると思います。なおかつ、優秀な方が阪南市にPRすることで、市民も誇りに思えるのではないかと。行政として、応援している姿勢を示すと、その方たちの流出を防ぐのではないかと。人と人の繋がりなので、特別なことはできませんが、市として、市民としても応援しているということが表現の1つであると思っています。検討していただきたいと思っています。</p> <p>もう一つ。67ページの山中溪でのレトロゲームについて。山中溪に世界の方から2,700人集まったのは、とてもすごいことだと思う。入場場が無料で、主催者の方が実費ですべて準備をされたのではないかと思います。</p> <p>色々な方からの意見で、もしこれをATCや東京ドームでやったら、2万人ぐらいの人を集客できる価値あるのではないかとっている方もいた。それは、ものすごく世界から注目されるべき。例えばそれを、阪南市のサラダホールや入場料も取って、それをPRしていくと1つの事業にもなります。主催者だけの実費では、申し訳ないと思います。</p> <p>それだけの優秀な方がいても、もし東京や海外に呼ばれてしまったら、流出してしまうのではないかとというリスクもあると感じるし、阪南市として、できる限りの支援を検討していただきたいと思っています。</p>
委員長	<p>事務局の方から何かございますか。</p>
事務局	<p>時間も押してきていますので、簡単にだけコメントさせていただきたいなと思っています。レトロゲームに関しましては、我々、非常に成功したと思っております。主催者側の方のご負担もありましたが、廃校を使っただけの試みは、我々としてもチャレンジをさせていただいたところではご理解いただきたいと思います。ただし、規模が大きくなっていくと、マーケットで勝負するようになってきますと、出ていく可能性は十分に考えられます。そこは繋がりを持って、阪南市にとどまっていたらどうか、繋がりをもっていきたいと思っています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。前半部分はなかなか市役所としてはいろいろ悩ましいところはあるかと思いますが、先ほどご提案いただいたように、横並びにしないといけないからやらないのではなく、まず1号目を出していただいて、2号3号と出していただくことによって、公平性を担保するという方法もあります。そこは知恵を出していただいて、それから協働という観点で言えば、市役所がやりにくいことこそ、市民側や民間で実施していただけたらいいかと思います。何でもかんでも市役所が全部かぶってしまわない方が実は動きやすいのかと思いますので、手段をご検討いただければと思います。ちなみにマグロを表に出すときは、そう簡単ではなかったです。他の研究している先生の中には、すごい先生もいるため、「なぜ、マグロだけなのか。」というお話になりました。当時は、創設者の権限で押し切りました。市長はそこま</p>

	<p>での権限をお持ちではないかもしれないので、なかなか難しいところありますが、ある意味で横並びにならないように、突き抜けているものはどんどん突き抜けていただいて、そのトップの方で横並びにできるような形で頑張っただけだと思います。</p>
委員	<p>スマートシティに関しまして、阪南市さんにおかれましては、我々が進めております大阪スマートシティパートナーズフォーラムでも様々なプロジェクトを実施していただきありがとうございます。今後、スマートシティ推進計画や地方版デジタル田園都市国家構想総合戦略を進めていくにあたり、ぜひご検討いただきたい点について述べさせていただきます。町全体のスマートシティを進めるにあたり、行政が先導役を果たすことが大事であると我々も取り組んでいる中で思います。まずは市民の皆さんにデジタルの便利さを体感してもらうこと。これが特に重要と考えます。行政サービスは市民生活と一体なので、市町村がDXに取り組むことはすごく重要で、こうした取組を積み重ねていくことで、どんどん市民さんのデジタルスピリッツも上がっていくのではないかと思います。</p> <p>一方、スマートシティ化を進めても、結局、利用してもらわないと意味がないので、行政としてはそのデジタルの便利さと安全性を普及啓発し、高齢者層を含めて、注意喚起を図っていくことが重要かと思っており、大阪府でも、スマートシニアライフ事業に取り組んでいます。これはDXを活用した高齢者のQOLの向上のための取組です。タブレット配布やLINE公式アカウント「おおさか楽なび」の開設を通じまして、民間企業事業者との連携による19のサービス提供させていただいております。これらの取組は、まさに高齢者層向けの需要喚起だと思っております。</p> <p>また、施策PRになりますが、9月から新たに「おおさか楽なび」の中で、高齢者の孤独・孤立の緩和等の観点から、コミュニケーション支援サービス「大ちゃんと話す」に生成AIを搭載する取組を実施しています。これは、「おおさか楽なび」の中のひとつのコンテンツとして展開しております。日常会話が少ない高齢者の方が、デジタルの世界で生成AIを搭載した柴犬の「大ちゃん」と様々な会話や雑談が可能となる取組です。今までデジタルに触れる機会がなかった高齢者の皆さんから「使ってよかった」等の声もいただいております。</p> <p>65歳以上の高齢者人口は全国でも4,000万人、大阪府でも200万人以上に上ります。この層へのアプローチを行政から進めていくことで、民間への裾野も広がっていくと思われれます。デジタル化は、高齢者施策と言っても過言ではないと思います。若者の方はデジタルに触れる機会も多いと思いますが、高齢者はデジタルに対し食わず嫌いのところもあると考えます。この層をいかに開拓していくのが、まちのスマートシティ化にも直結し繋がっていくのではないかと思いますので、こういった観点を入れていただきながら、我々も阪南市さんと一緒になって、取組を進めていきたいと思っております。ぜひよろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。ご意見を活かしていただければと思います。</p>
副委員長	<p>全国的にスマートシティ化されてきているが、ベースは総合計画であることをしっかりと認識しておく必要があります。言い方悪いかもかもしれませんが、技術論・手法論であるわけで、最終的に概念的な市のあり方はしっかりと見据えた上で、デジタル化ができるところを取り組んでいく。スマートシティの観点で、デジタルの総合戦略を検討していくことは、タイミング的にはいいとは思いますが、本来は、まちひとしごと創生の観点でデジタル化をしたときにどのように総計を見据えて、この総合戦略を推進していくのかをチェックすることが必要。委員長のもとで、スマートシティを認識して、今後に向けて推進していくところはしっかりと位置付けないといけない。別のところで、決めてしまうのは、あまり適切でないと思います。しっかりと創生委員会の中で決めていく方がいいかと思います。進め方については詳しくは聞いてないですが、ボタンをかけ違えないようにされる方が適切かと思えます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。国のデジタル田園都市国家構想の総合戦略にのっていくためには、我々の中身を検討していくとうことですね。</p> <p>デジタル化について、「高齢者＝デジタルに疎い」が、本日出てきたお話でありました。年齢的な定義は65歳以上が高齢者ですけれども、私もその年代になってきて思うことは、我々ももうパソコンが使えるようになってから、大人になった世代なので、使う人はバリバリ使える。高齢者の定義の65歳で、固定観念を持たない方がいいかと思えます。逆に若い方でデジタルに弱い方もいます。年齢で区切るのではなく、いろんな年代ごとに、デジタル化に強い・弱いにばらつきがありますので、そこを考慮していただければと思います。実際、午前中に学生のデジタルの授業やってきましたけど、パソコンを使えない学生はいました。10代20代でも使えな</p>

い人もいるし、60代70代でもバリバリ使える人もいるということです。
 他いかがでしょうか。⇒意見なし。
 それでは、今年度ご報告いただいた内容で進めて参りたいと思います。さらにデジタル田園都市国家構想の総合技術戦略の方も、また、この場で議論をさせていただくこととなりますので、その節はよろしくお願ひします。それではその他事務局から連絡事項等ございましたら、よろしくお願ひします。

(5) その他

事務局 次回の日程につきましては、候補日が決まり次第、ご案内したいと思っております。引き続きよろしくお願ひいたします。

委員長 ありがとうございます。それでは委員の皆さんから振り返りも含めて言い忘れたこと、或いは情報提供等ございましたら、お願ひしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。⇒なし
 本日はこれで委員会を終了いたします。本日は、ありがとうございました。

-以上-